

歴史都市防災計画研究部会

部会代表者：理工学部・准教授 小川 圭一

部会副代表者：理工学部・講師 青柳 憲昌

研究メンバー：大窪 健之、鈴木 祥之、武田 史朗、塚口 博司、豊田 祐輔、林 倫子

【研究計画の概要】

文化遺産を核とした周辺地域の防災環境を整備するための文化遺産防災計画の策定を行う。計画実施に必要な要件や評価手法を確立し、文化遺産を守り活用する歴史防災まちづくりを実現するための研究を推進する。

具体的には、以下の項目について研究を進める。

(1) 篠山市福住重伝建地区における歴史防災まちづくり計画の策定調査

文化遺産の地域防災拠点化促進に向けた、地域コミュニティとそこに位置する文化遺産管理者間の助け合い（自助・共助）に必要な要件や手法を同定する「歴史防災まちづくり計画」、および歴史都市の減災のための政策策定およびその有効性評価手法の確立に取り組む。具体的には、篠山市福住重伝建地区の歴史防災まちづくり計画のための調査及び計画案の策定を目指す。今年度は計画案の実施へ向けて、住民ワークショップや発災対応型防災訓練を通して計画内容のブラッシュアップを図る。

(2) 与謝野町加悦伝建地区の防災計画実施に向けた調査研究

歴史都市の減災のための政策策定およびその有効性評価手法の確立や、行政や文化遺産管理者による文化遺産の防災計画策定の判断基準等の提供を行う。今年度は、与謝野町加悦重要伝統的建造物群保存地区の防災事業の実施プランニング策定に関する調査研究を行う。

(3) 京都市市街地の災害時観光客避難と交通マネジメントに関する研究

歴史都市・観光都市における災害時の緊急車両や観光客の誘導など、交通ネットワークの課題の抽出と解決策の検討を通して、文化遺産防災に適した「歴史都市防災交通計画の提案」に取り組む。今年度は、京都市中心部と東山地区を対象として、複数の災害シナリオを想定した災害時の交通需要の推計を行い、災害発生状況に応じた交通マネジメント方法の検討や、観光客を安全に避難させるための避難誘導経路の選定方法の検討を行う。

(4) 防災的観点から見た都市形成史に関する調査研究

防災的観点から日本の歴史都市がどのように形成されてきたのかを史的資料をもとに再検証し、都市史のおよび建築史的な調査研究を行うことを通して、今後の歴史都市防災に有効な示唆を得つつ、歴史都市の将来の防災手法構築に取り組む。具体的には、近世城下町の都市設計思想や都市発展過程について現地調査や文献調査を行い、都市形成史上、防災に対する様々な配慮があったことを明らかにする研究等である。

(5) 滋賀県の水害履歴調査と防災まちづくりへの応用

2013 年の台風 18 号では滋賀県下でも多数の被害が出たが、それまで長らく大きな水害が起きていなかった。このため、かつては地域で共有されていた、水害リスク情報や共助レベルでの水害対応方法などが、現代のコミュニティにうまく伝承されていないという課題がある。本研究では、水害被災経験のある滋賀県民から当時の被災状況や災害対応などの聞き取りを行う

「水害履歴調査」に、滋賀県と滋賀県民、立命館大学の官民学連携で取り組み、得られた調査結果の学術的価値の検証や今後の防災計画への応用可能性の検討を行う。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

研究計画の通り、「篠山市福住重伝建地区における歴史防災まちづくり計画の策定調査」、「与謝野町加悦伝建地区の防災計画実施に向けた調査研究」、「京都市市街地の災害時観光客避難と交通マネジメントに関する研究」、「防災的観点から見た都市形成史に関する調査研究」、「滋賀県の水害履歴調査と防災まちづくりへの応用」の 5 件の研究課題について取り組んだ。

II. 研究成果の詳細

(1) 篠山市福住重伝建地区における歴史防災まちづくり計画の策定調査

文化遺産の地域防災拠点化促進に向けた、地域コミュニティとそこに位置する文化遺産管理者間の助け合い（自助・共助）に必要な要件や手法を同定する「歴史防災まちづくり計画」、および歴史都市の減災のための政策策定およびその有効性評価手法の確立に取り組んだ。具体的には、篠山市福住重伝建地区の歴史防災まちづくり計画のための調査及び計画案の策定準備を進めた。今年度は計画案の策定へ向けて、住民ワークショップとして座学となる災害図上訓練と実学となる防災まちあるきを住民と共に実施し、詳細な災害リスクの共有と可能な対策について検討した。研究の成果は、吉田輝、吉田恭祐ほかにより、理工学部都市システム工学科の卒業論文として整理され、学会発表を行う予定である。

(2) 与謝野町加悦伝建地区の防災計画実施に向けた調査研究

歴史都市の減災のための政策策定およびその有効性評価手法の確立や、行政や文化遺産管理者による文化遺産の防災計画策定の判断基準等の提供を行った。今年度は、伝統構法木造住宅の耐震改修を促進するため、講演会「伝統構法木造住宅の耐震対策『しなやかに粘り強く 地震に備える』」を与謝野町岩滝知遊館で 8 月 30 日に行った。耐震改修を実践するために地域の実務者が耐震改修の方法を学ぶ講習会を 11 月 15 日～16 日、12 月 6 日～7 日に実施した。また 11 月 23 日に加悦地区で防災学習会と防災訓練を行った。

(3) 京都市市街地の災害時観光客避難と交通マネジメントに関する研究

今年度は、京都市中心部と東山地区を対象として、複数の災害シナリオを想定した災害時の交通需要の推計を行い、災害発生状況に応じた交通マネジメント方法の検討や、観光客を安全に避難させるための避難誘導経路の選定方法の検討を行った。また、これまで京都市を対象に行ってきた避難誘導経路の選定方法の検討を他の都市を対象としても行い、他の歴史都市への応用可能性の検討を行った。研究成果については、来年度の歴史都市防災シンポジウムにて発表を行う予定である。

(4) 防災的観点から見た都市形成史に関する調査研究

防災的観点から日本の歴史都市がどのように形成されてきたのかを史的資料をもとに再検証し、都市史のおよび建築史的な調査研究を行い、歴史都市の将来の防災手法構築に取り組んだ。今年度は、具体的には、近代京都の都市形成史に着目し、明治後期における社寺上地林の再編入過程に示された防災思想に関する研究を行った。また、草津市常磐地区の村落（芦浦村）に

関して、江戸時代における都市形成過程を明らかにする研究を行った。これらの研究成果は次年度に発表する予定である。なお、上記に加えて近世城下町の都市設計思想や都市発展過程に関する研究の準備を行った。

(5) 滋賀県の水害履歴調査と防災まちづくりへの応用

2014 年度は、須原、六条（いずれも野洲市）、妹（東近江市）、上丹生（米原市）の各地区において、地元の住民を対象とした聞き取り調査を行い、その結果をマップにまとめて各治会に還元した。本学では、聞き取り調査によって得られた情報を当時の文献資料と照らし合わせるなどして、歴史情報としての精査と体系化を図った。妹地区ではさらに応用的な取り組みとして、東近江市愛東コミュニティセンターの主催する地域住民向けの防災学習行事と連携し、調査結果の報告会およびディスカッションを実施した。

Ⅲ. 今後の研究計画・展開

引き続き、上記 5 件の研究課題について継続的に取り組む予定である。

与謝野町加悦重要伝統的建造物群保存地区の防災事業の実施プランニング策定に関して、天神山旧貯水槽を用いた消防システムの可能性について検討するとともに、伝統構法木造建築物の耐震改修の促進を進める。